

第 22 回新型コロナウイルス感染症対策協議会 委員ご意見

議題（１） 病床確保計画改定（案）について

委員	意見
掛屋会長	<p>第 6 波では感染力が強いオミクロン株の流行により、想定を上回る新規陽性患者を経験した。流行株（オミクロン株）の影響や府民の新型コロナウイルスワクチンの接種率の向上により、重症病床の逼迫は起こらなかったが、ピーク時には軽症中等症病床の使用率は 100%を超えた。特に高齢者の入院が多かったため、入院が長期化し、後方支援の病院・施設へのスムーズな転院が課題として挙げられた。</p> <p><u>今回の病床確保計画の改定に基本的に賛同する。第 6 波を超える病床数（重症病床、軽症・中等症病床）を確保しておくことが望まれる。また、フェーズの移行の判断については、感染状況や病床運用率等をふまえて、総合的に判断することが重要である。今後、想定を上回る新規患者が発生する可能性もあり、病床確保が少ない施設においても緊急避難的な病床確保要請や休止病床等の活用にて増床いただくことを要請することに賛同する。</u></p> <p>また、大阪府下においても新型コロナウイルス感染症患者の非受け入れ病院も多いが、今後、新型コロナウイルス感染症が院内で発生する可能性も高く、<u>院内発生を想定した院内での診療シミュレーションが求められる。今後も、オール医療体制を目指して診療体制の確保を進めていくことを期待する。</u></p>
乾委員	<p>第六波の経験を活かし<u>病床確保計画の改定をされることには賛成であるが、病院の体制に過度な負担がかからないよう一般医療との両立の視点もしっかり考慮していただければと思う。</u></p>
忽那委員	<p>新型コロナウイルス感染症の感染者数は流行を繰り返すごとに増えているが、ワクチン接種率の向上、治療薬の開発、そしてオミクロン株の拡大などの背景から、重症度は徐々に低下してきている。このため、相対的には重症病床よりも軽症中等症病床の需要が増加しており、第 6 波でも軽症中等症病床の逼迫がみられた。</p> <p><u>すでに新型コロナウイルス感染症の流行から 2 年半が経過しており、特定の医療機関だけで対応するフェーズではなくなってきており、これまで対応してきていなかった医療機関や診療所にも診療に参加していただく必要がある。一方で、治療や感染対策について最新の知識を持った上で医療従事者の安全を確保することも重要であり、これらが担保された上で診療を多なっていたことが重要である。</u></p>
佐々木委員	<p>現在フェーズ 5 の確保病床数として、重症 610 床、軽症・中等症 3,100 床が設定されている。第 6 波は重症病床よりも軽症・中等症病床がひっ迫した経験から、<u>第 7 波においても、重症病床よりも、軽症・中等症病床のオーバーフローが起こる可能性が高く、軽症・中等症病床ひっ迫時の対応を考慮しておくことは意義がある。</u>その際に、原案に示された、<u>①許可病床数に占める軽症・中等症確保病床が平均未満の病院に対し、平均程度まで確保を要請する案に賛成する。</u>さらに軽症・中等症病床がひっ迫した際には、<u>②軽症・中等症確保病床がすでに平均以上の病院に対し、休止病床の活用等による緊急的な増床要請をする案、にも同意するが、あくまでも、①→②と段階を踏んでの増床要請が望ましいと思う。</u></p> <p><u>フェーズの移行の判断として、第 6 波では、軽症・中等症入院患者数が急激に増えた経験をふまえて、病床数の使用率がより低い段階で上のステージに移行する原案に賛成する。</u></p>

委員	意見
茂松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の感染状況（変異株の出現等）を推測するのは難しいが、感染急拡大等を念頭に置き、確保病床の増床を検討することは妥当である。今般、大阪府より提示を受けた「<u>新型コロナウイルス感染症にかかる病床確保計画（改定案）</u>」の方向性に賛同するが、留意点等を下記に記載する。 ・病床確保もさることながら、<u>医療従事者（スタッフ）の確保をいかに行うかが重要</u>。各病院に対し、確保計画（昨年11月19日策定）が運用された際の現状等、ヒアリングしてはどうか。 ・重症病床（フェーズ5）：現行の610床から620床へ上乘せがなされている。本会の専門家による検証会議（令和4年1月15日開催）では、「府内のICU運用の実力からすれば、610床の実運用は難しいのではないか」との指摘があった。 ・軽症中等症病床（緊急避難的確保病床）：1,500床を目安に要請することだが、コロナ以外の治療で用意している病床を埋めることにならないのか危惧する。大阪府におかれては、<u>各病院や地域の医療提供体制の実情を踏まえ「要請（協力依頼）」としていただきたい。</u>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・病床確保計画改定（案）については、第六波の感染拡大傾向を十分に分析して策定されており、<u>フェーズ移行の考え方等について妥当である</u>と考える。 ・今後新たな変異株が出現した場合など、感染拡大の状況が第六波と異なる可能性があることから、<u>フェーズ移行の運用にあたっては、専門家の意見を踏まえ、機動的かつ柔軟な対応に留意されたい。</u> ・軽症中等症病床がひっ迫した場合には、<u>診療型宿泊療養施設や臨時の医療施設の活用などについて検討されたい。</u>
倭委員	<p>第21回大阪府新型コロナウイルス感染症対策協議会において検討された、オミクロン株の特性を踏まえ、さらに第六波を上回る感染拡大を見据えた病床の「考え方」ならびに第六波の病床運用状況に基づいて出された、<u>軽症中等症病床における緊急避難的確保病床の追加と、フェーズ移行の判断基準等の見直しにかかる大阪府の病床確保計画改定(案)に賛同する。</u>次なる変異株の感染拡大時には、その特徴を踏まえ、状況に応じて臨機応変に柔軟に対応することも望まれる。例えば、特に中等症・重症病院において重症病床が空いているが、<u>中等症病床が不足している際には重症病床で中等症患者の対応に当たるなど、病状悪化前に治療を確実に行っていただきたい。</u></p>